

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

## 2 中期的目標

<※平成 29 年度からの 3 か年目標>

## 1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての教員の指導」に関する項目における満足度（平成 28 年度 68%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 74%にする。

## 2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (4) ICT機器の活用や研究発表活動、アクティブラーニングの機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (5) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
- (6) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。

【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率 90%以上。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 名以上。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路実現に関する項目」における満足度（平成 28 年度 83%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 89%にする。

## 3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度（平成 28 年度 58%）を毎年 3%引き上げ、平成 31 年度には 67%にする。

## 4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域の清掃活動や各種施設等に対する、生徒の参加の機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者（平成 28 年度参加 350 人）を毎年増員し、平成 31 年度には 400 人にする。

## 5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題がある生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
- (3) 知的障がい者自立支援コース生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 28 年度 72%）を毎年 2%引き上げ、平成 31 年度には 78%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒指導】</p> <p>○「入学してよかった」や「学校へ行くのが楽しい」の項目で、1年から3年に上がるにしたがって数値が上昇している。3年生では 75%の生徒が「入学してよかった」と答えており、保護者向けの数値でも 90%を超えていることは、本校の特徴であるといえる。保護者からの評価が優れて高いことと、生徒については年次を追うごとに学校の姿勢や教育方針を理解し、満足度が上昇していく傾向はこれまでと同じである。生徒の満足度を更に高めていく努力が必要と考える。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>○「進路指導等ガイダンスは適切に行われているか」や「進学・就職に向けての適切な指導」の項目で、生徒向け、保護者向けともに数値は 80%を超え、昨年と変わらず高い。保護者向け進路説明会の年 6 回開催など、きめ細かい進路指導を今後も継続するとともに、ネット環境に対応した取組みを更に進めることが肝要と考える。</p> <p>○「放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」という保護者向けの項目では、昨年より 12 ポイント上昇し 84%になっていることは大きな成果である。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>○「授業がわかりやすい」の項目で、生徒向けの数値は昨年とほぼ変わらず 61%であるが、保護者向けでは昨年より 14%上昇し、67%となっている。また、「コンピューターや ICT が活用されている」が生徒向けでは昨年より 13 ポイント上昇し 60%と成果が上がってきている。</p>	<p>【第 1 回（6月23日）】</p> <p>① 平成29年度学校経営計画より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導において、先生の思いが伝わりにくい生徒がいることについて、昨今コミュニケーションの取り方が大きく変化してきていることが原因として挙げられるのではないかと。特定の先生のみが生徒指導をすることでこういう弊害が生じるので、全教員で指導にあたることを提言したい。</li> <li>・昨年度の進路実績が目標値に達しなかったが、個々人の将来を見据えた進路指導を実践している八尾翠翔高校の指導方法は評価できる。そもそも進路希望は本人の適性や将来の目標により千差万別で、有名大学に何人合格したかといったような目標設定自体を見直すことが大事だ。時代遅れと言われても致し方ない。</li> <li>・挨拶運動など、地域でも好意的に受け止めている。こうした動きが学校全体に広がって、八尾翠翔高校のイメージがもっと向上するようにして欲しい。</li> <li>・授業改善の取組みが進んでいるようだが、授業は導入の部分が大事だと思う。冒頭に本時の目標を伝えることで、焦点がはっきりし生徒の理解が促される。授業観察シートの項目に、「私が言いたかったことが分かりましたか?」といったものを加えてはどうか。</li> <li>・生徒の海外語学研修の実施や、オーストラリアの高校生を迎えての行事など、国際交流を盛んにされていることが分かるが、学校経営計画の中に、評価指標としてこれらを加えたらどうか。例えば、スピーチコンテストに何人生徒が参加したとか、2年後のワールドカップ開催を見据えて、商店街などでも一般商店主向けに無料の「英語塾」が開催されているようだが、こうした取組みに生</li> </ul>

<p>○「家庭での予習・復習」や「授業で自分の考え方を発表したりすることがよくある」については、それぞれ40%、50%程度で更なる努力が必要だ。教員相互の授業見学は昨年度以上に活性化してきたが、生徒を主体的に動かすような授業実践の研修などについて、更なる取組みが重要である。</p> <p><b>【特別活動】</b></p> <p>○「ホームルーム活動やクラス活動は活発」の項目で、生徒の数は昨年とほぼ変わらず63%であった。また「文化祭、体育大会、修学旅行など楽しく工夫されているか」では昨年より6ポイント上昇し59%になり少しずつ成果が表れている。</p> <p>○「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目では、生徒は67%、保護者では87%と、特に保護者の満足度が高く、それぞれ昨年より6ポイント、8ポイント上昇している。部活動生徒による近隣の清掃活動や、あいさつ運動も功を奏していると考えられる。</p> <p><b>【人権教育】</b></p> <p>○「命を大切にできる心や社会のルールを守る態度を学ぶ機会がある」の項目では、昨年とほぼ変わらず70%であった。保護者の数は82%となっており、一定の信頼を寄せてくれていることが分かる。</p> <p>○「学校はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目は今年度から新たに設定されたものである。</p> <p>生徒の数は62%と想定外の低さであるが、保護者は76%が肯定的に捉えている。生徒の肯定率の低さの原因を追究することが今後の課題である。</p>	<p>徒を参加させるとか、考えていただきたい。</p> <p>② 次年度採用予定の教科書の紹介 内容等どれも工夫がこらされ適切な教科書である。</p> <p><b>【第2回（11月9日）】</b></p> <p>① 第1回授業アンケートの結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のスコアが伸びていることは評価できる。</li> <li>・「予習、復習ができていないか」という項目での数値が伸びていないことが気になる。</li> <li>・宿題はやるが、授業本体の予習等の時間が取れないのではないかと。英語の宿題や教養テストの下調べに時間を取られ、宿題を後回しにすることで雪だるま式に増えていき、日々の授業の予習や復習が疎かになってしまうことも考えられる。各教科で、宿題の配分を工夫することも必要ではないだろうか。</li> <li>・やらされた感のある勉強はつらいもので、むしろ勉強の方法を身に付ける指導が重要だ。予習や復習を習慣化する取組みを進めてみてはどうか。</li> </ul> <p>② 授業見学強化週間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互の授業見学は、期間を決めて実施しないと徹底しないものだ。年二回、期間を設けて全教員で取り組むことには大きな意義がある。</li> <li>・ビデオによる授業者自身の授業風景の撮影は面白い。良い取組だ。</li> <li>・教員の授業だけでなく、生徒の反応も撮影しておくとも良い反省材料になる。</li> <li>・相互に検討しあうのは、授業だけではなく定期テストの問題作成にも反映できないか。問題の内容も向上し、生徒にとって利益となる。</li> </ul> <p><b>【第3回（2月1日）】</b></p> <p>① 学校教育自己診断アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、小・中学校時代から手厚い保護を受けてきた生徒が多い。コミュニケーションの取り方が不得手で、はっきり自分の意見が言えない生徒も増えているようだ。勉強の仕方なども、自分から積極的に学ぶ姿勢が大切で、学校からいろいろな情報を一方的に提供してくれるという姿勢は良くない。小中と比較して、入学後高校に対して様々なことを要求されても、出来ることと出来ないことがあるので、はっきりと言う必要がある。</li> <li>・他府県に比べて大阪の義務教育の指導は緩いと思う。高校では、社会に出てからの常識を大いに学ばなければならない。生徒の力をつけるためには、「厳しさ」が必要で、「厳しいから高校へ行く」というような理解が必要に思う。</li> <li>・一人っ子が増えているからか、兄弟から上級学校について学ぶ、社会の常識について学ぶといった機会がほとんどない。学習にしても、少し上の先輩のような指導者から受ける刺激は大きい。大学生を招いて、チューターとしてこうした指導を委ねることを考えてみてはどうか。</li> </ul> <p>② 本校の校則等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の表現の仕方を工夫してはどうか。例えば書き方や内容についても、生徒に考えさせたり、生徒の意見を聞くことで、生徒たちもなぜこのようなルールが必要なのか気づくと思う。</li> <li>・ケータイの使用を校内では一切認めていないが、ケータイの使い方についても学ぶことが大切。部活動等でも、利用することで録音や録画など、練習時に便利な面があると聞く。一度一考願いたい。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	<p>(1) あいさつ運動と生徒との対話の推進</p> <p>(2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成</p> <p>(3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実</p>	<p>(1) 校内でのあいさつを積極的に推進し、対話を重ねることで、学校で楽しく生活することができる雰囲気醸成する。</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 授業の開始と終了時の号令、授業中の規律について生徒自らが徹底するように努める。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を充実させる。</p> <p>(3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※平成28年度61% →65%目標</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※H28年度68%→70%目標 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※H28年度40%→43%</p> <p>(3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※H28年度50%→54%</p>	<p>(1) あいさつ運動は定着した。次年度は生徒との対話を促進したい。64% (○)</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が自主的に出来るように更に進めていく。次年度の課題である。63% (△) <input checked="" type="checkbox"/> 授業等で活動の機会を増やしたが、まだ十分とはいえない。49% (◎)</p> <p>(3) 生徒との距離感を縮める努力を継続して行う。50% (○)</p>

## 府立八尾翠翔高等学校

2 進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育指導の再構築</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(4) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(5) 家庭学習の定着</p> <p>(6) 語学研修や国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 普通科専門コースの完成年度を迎え、生徒向けの進路選択及び科目選択のガイダンスを強化する。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスセンターを活用し、生徒の自主性を育てる。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 教科会議で育てたい生徒と身に着けさせたい学力を確認し、教科として3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」と「生徒のニーズ」に関する協議を常時議論し、教員研修の機会を持つ。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> ICT機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために、教育産業による学力分析システム等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p> <p>(6) 海外語学研修を実施し、多方面での国際交流活動を推進する。平成28年度まで隔年実施、29年度から毎年実施予定。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> ① 生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※平成28年度81% → 84%目標 ② 卒業時の国公立大学及び難関私立大学学合格者数の合計15名以上</p> <p>(2) ① 生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 ※平成28年度60% → 65%目標 授業アンケート全教科平均値の向上 ※平成28年度3.21 → 3.25目標</p> <p>(3) ※平成28年度教員研修（教科指導）→ 2回目標</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断におけるICT機器に関する項目の肯定的回答の向上 ※平成28年度48% → 52%目標 <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※平成28年度40% → 45%目標</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※平成28年度45% → 48%目標</p> <p>(6) 語学研修参加者アンケート、参加後の満足度肯定率70%以上目標</p>	<p>(1) ① キャリアガイダンスセッションや受験問題集の貸し出しは高評だ。次年度も継続する。81% (○) ③ 16名 (○)</p> <p>(2) 授業改善は徐々に成果をあげつつある。次年度は授業見学等をより深化させたい。授業アンケート全教科平均3.25% (○) 自己診断アンケート61% (○) (3) 授業見学強化週間（2回）に伴う教員研修（教科指導）と電子黒板を活用した授業研修（1回）を行った。(○)</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> ICT機器利用もかなり普及してきた。プロジェクター等の整備が喫緊の課題である。自己診断アンケート60% (○) <input type="checkbox"/> 授業での発表の機会は一定増えたが、来年度も継続して進める必要がある49% (○)</p> <p>(5) 宿題や課題に割く時間は多いものの、主体的な家庭学習は課題として残されている。生徒の意識づけに取り組みたい。41% (△)</p> <p>(6) 参加後のアンケート満足度100% (○) 今後に繋げたい。</p>
3 特別活動の充実	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの、生徒の積極参加を促す。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) ホームルーム活動を生徒の主体的な活動と位置づけ、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※平成28年度54% → 57%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※平成28年度40% → 45%目標</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答の向上 ※平成28年度63% → 66%目標</p>	<p>(1) 行事等で生徒が活躍できる場面を増やした。次年度は更に進めたい。59% (○)</p> <p>(2) 徐々に高まっているが、まだ数値的には低い、継続して進めていく。49% (○)</p> <p>(3) あしぶみ状態ではあるが、少しずつ成果をあげている。次年度も継続して進める。63% (○)</p>
4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動への生徒による主体的参加の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 情報発信力の再構築</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学において、生徒会役員・クラブ員・その他有志の生徒を積極的・主体的に参加させる。司会・案内を生徒が中心となって行う等、生徒を中心に置いた広報活動を展開する。</p> <p>(2) 曙川東地区を中心とした清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の良さを、積極的に地域に伝える。新ホームページを活用した情報発信力の強化と広報力の向上をめざす。</p>	<p>(1) ※H28年度：生徒参加延べ150人参加→H29年度：170人参加目標</p> <p>(2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数 ※H28年度：延べ350人参加→380人目標</p> <p>(3) ※学校説明会参加者延べ400人目標</p>	<p>(1) 本年度は延べ210人参加 (○)</p> <p>(2) 募金活動や近隣での一斉清掃など、生徒主体の活動を継続して実施していく。430人参加 (○)</p> <p>(3) H29年度460人生徒参加 (○)</p>
5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p> <p>(3) 自立支援コース生徒との交流促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力を強化するとともに、生徒が、命の大切さや人権についての意識を高めるような指導を充実させる。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p> <p>(3) 自立支援コース生徒と他生徒との相互交流の機会を増やし、相互の信頼と協同の機運を高める。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目における肯定的回答の向上 ※H28年度72% → 74%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※H28年度46% → 50%目標</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目における肯定的回答の向上 ※H28年度72% → 74%目標</p>	<p>(1) 次年度は人権講演会等で、先進的な取り組みを模索していく。70% (△)</p> <p>(2) 発達障がい等に関する研修やサポート委員会での情報交換に努めた。数値が低いのは教育相談を受ける生徒が少ないことも影響していると思われる。42% (△)</p> <p>(3) 自立支援コース生と一般生徒との交流の機会を一層増やす方法を模索する。70% (△)</p>